

明和町文化財年報

—令和 5 年度—

令和 7 年（2025）3 月

三重県多気郡明和町



史跡斎宮跡第 204・5 次発掘調査時の竹神社周辺（南東から） 令和 5 年（2023）撮影



交差点改良以前の竹神社周辺（南から） 昭和 51 年（1976）撮影 竹神社提供

<例 言>

1. 本書は、三重県多気郡明和町における令和5年度の文化財保護業務に関する調査成果等の概要について報告するものである。記載内容の中心は文化財系の業務であるが、観光系の業務内容の中で関係性の高いものも含まれている。
2. 本書の編集は斎宮跡・文化観光課文化財系の味噌井拓志が行い、第5章1節の一部の執筆を同課の中澤郁巳が行い、それ以外を味噌井が執筆した。
3. 本書に用いた座標は世界測地系に基づく。
4. 土層の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖』に拠った。
5. 年月日の表記について、令和5年度内であれば基本的に月日のみで表記している。

<目 次>

第1章 組織と業務	1	5. 出講	
1. 組織		6. 保存処理	
2. 事務分掌		第6章 その他の文化財・日本遺産など	21
第2章 指定文化財・登録文化財	2	1. 有形文化財	
1. 明和町の指定文化財・登録文化財		2. 無形民俗文化財等	
2. 明和町文化財保護審議会		3. 方言調査	
3. 修繕など		4. 寄贈・寄託	
4. 県指定有形文化財の所在地変更届		第7章 学校教育	28
5. 指定に関わる調査など		1. 出前授業	
6. 新たな指定文化財・登録文化財への交付式		2. 地域学習交流事業	
第3章 史跡	4	3. 副読本検討会	
<史跡斎宮跡>		4. みえ祭り協力隊	
1-1. 現状変更許可申請		5. その他	
1-2. 発掘調査		第8章 講座など普及啓発活動、その他	30
2. 史跡斎宮跡保存活用計画		1. めいわ文化遺産講座	
3. 活用		2. 講座・イベントなど	
第4章 天然記念物	7	3. 刊行物	
1. 開花状況		4. 問い合わせ対応、資料調査対応など	
2. 現状変更等許可申請		5. 文化財保護関係団体などの活動	
第5章 埋蔵文化財	8	6. 関連新聞記事一覧	
1. 周知の埋蔵文化財包蔵地における発掘届出		附編	39
2. 主要調査の概要		1. 指定文化財・登録有形文化財一覧	
3. 企画展「明星地区の古代の暮らし」		2. 各種委員会	
4. 貸出・資料提供		3. 事業	

第1章 組織と業務

1. 組織

明和町の文化財保護に関する業務について、令和5年度は下記の体制で行った。

斎宮跡・文化観光課（町長部局）

課長：稲浦 満

・文化財係

（事務担当） 係長：河村 尚紀 職員：中西 渉

（発掘調査担当） 係長：乾 哲也（文化財技師）

職員：味噌井 拓志（文化財技師）、中澤 郁巳（文化財技師）

会計年度任用職員：1名

発掘調査作業員：15名（※登録） 発掘調査整理作業員：3名（※登録）

斎宮のハナショウブ群落・坂本古墳公園管理作業員：17名（※登録）

・観光係

観光係長：室岡 伸英 職員：池田 夏音

2. 事務分掌

斎宮跡・文化観光課

（ア）文化財の保存、活用及び管理に関すること

（イ）観光及び特産品の振興に関すること

（ウ）歴史文化観光のまちづくりに関すること

（文化財係）

（ア）指定文化財に関すること

（イ）文化財の保存活用に関すること

（ウ）史跡公園及び施設の管理に関すること

（エ）保存活用計画に関すること

（オ）日本遺産に関すること

（カ）歴史的風致維持向上計画に係る事業推進に関すること

（キ）その他文化財に関すること

（観光係）

（ア）観光事業の振興に関すること

（イ）観光関係団体に関すること

（ウ）特産品の販路開拓に関すること

（エ）その他文化観光まちづくりに関すること

第2章 指定文化財・登録文化財

1. 明和町の指定文化財・登録文化財

指定・登録件数

令和6年3月31日現在

区分	有形							無形	記念物		合計
	建造物	絵画	書跡	彫刻	工芸品	古文書	考古資料	民俗文化財	史跡	天然記念物	
国				1			2		2	1	6
県		2	2		4	3	9		1		21
町	2	1		9	1	4	1	9	5		32
合計	2	3	2	10	5	7	12	9	8	1	59
国登録文化財	2										2

※詳細は巻末の附編を参照

2. 明和町文化財保護審議会（委員名簿は附編参照）

- 令和5年度第1回明和町文化財保護審議会

【日時】：令和6年3月7日

【場所】：明和町中央公民館

【出席】：8名 欠席：0名

<議題>

- 高塚1号墳の取組状況
- 八木戸薬師寺木造大日如来坐像の調査報告
- 養川丹歌寺木造聖観音立像の修繕について
- 斎宮跡保存活用計画の策定状況
- その他



第1回明和町文化財保護審議会

3. 修繕など

今年度は指定文化財の名称看板について、木造阿弥陀如来坐像・木造僧形坐像（納願寺）、鳥墓神庖跡（養村）、木造阿弥陀如来立像（両谷寺）において経年劣化したものを更新や修繕を実施した。



左から納願寺、鳥墓神庖跡、両谷寺

4. 県指定有形文化財の所在地変更届

上野の安養寺が所蔵する県指定有形文化財(工芸品)について、特別展「東福寺」展示のため、令和4年度から年度をまたいで出展がなされた。(詳細は昨年度年報を参照)資料返却に合わせて、安養寺の協力を得て本堂において京都国立博物館学芸部企画・工芸室長の山川曉氏による、出展什物の解説会を開催し、地元上野地区の住民を中心に25名が参加した。



安養寺本堂での解説会

5. 指定に関わる調査など

- ・10月25日 八木戸薬師寺 大日如来坐像調査
- ・12月16日 養川丹歌寺本尊情况確認
- ・1月11日 養川丹歌寺本尊修繕協議
- ・3月1日 養川丹歌寺什物調査



6. 新たな指定文化財・登録文化財への交付式

6-1. 町指定無形民俗文化財「上村のシメナワ日待ち」

令和4年度に新たに町指定無形民俗文化財に指定されたことをうけ、令和5年5月9日に保持団体である上村自治会中組の関係者に対し指定書および保持団体認定書の交付を行った。

指定書には、伊勢参宮ブランド擬革紙の会ならびに地域おこし協力隊の北田智里氏の協力を得て、擬革紙の技法を用いたものとした。



指定書交付式

6-2. 国登録有形文化財「乾家住宅門及び塀」・「澄野家住宅主屋」

新たに国登録有形文化財として令和5年8月7日に官報告示がなされたことを受け、文部科学省から送付された登録有形文化財登録証の交付式を、令和5年9月27日に澄野家住宅主屋において開催した。

登録証交付式



第3章 史跡

< 史跡斎宮跡 >

1-1. 現状変更許可申請

文化財保護法第125条第1項の規定による史跡名勝天然記念物現状変更の受理：47件

申請の内、発掘調査を実施したものの一部は国庫および県費の補助金を受けた。また、調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館調査研究課および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。なお、令和5年度の調査結果の概要は『史跡斎宮跡 令和5年度 現状変更緊急発掘調査報告』を参照されたい。

1-2. 発掘調査

竹神社前交差点の改良工事および明和町のポケットパーク造成に伴う発掘調査を実施した。調査内容は前述の報告書を参照されたい。調査に伴い斎宮歴史博物館と共同して、現地説明会を開催した。

現地説明会：令和5年7月3日 参加者130名



現地説明会実施状況

2. 史跡斎宮跡保存活用計画

令和4年度に引き続き史跡斎宮跡保存活用計画策定委員会において計画策定に向けて議論がなされた。(委員名簿は附編参照)

・令和5年度委員会開催状況

- | | | |
|------------|-----|-------------------------|
| 令和5年6月1日 | 第2回 | 史跡斎宮跡保存活用計画策定委員会 (作業部会) |
| 令和5年7月27日 | 第3回 | 史跡斎宮跡保存活用計画策定委員会 (作業部会) |
| 令和5年10月2日 | 第4回 | 史跡斎宮跡保存活用計画策定委員会 (作業部会) |
| 令和5年11月24日 | 第5回 | 史跡斎宮跡保存活用計画策定委員会 (作業部会) |



3. 活用

史跡斎宮跡内では年間を通じて、さまざまな団体などによる多様な活用がなされている。主なイベントの実施日と実施主体は下記のとおりである。

【＊明和町日本遺産活用推進協議会＝日本遺産協議会、公益財団法人斎宮跡保存協会＝保存協会、一般社団法人明和観光商社＝観光商社と略表記する】

- ・桜のライトアップ【個人】 4月1日～2日
- ・いつきのみや 2023Ver.2 【日本遺産協議会】 4月29日～6月4日
- ・鎮守の森遊び【観光商社】 5月5日
- ・平安装束着付け講習会 5月23日
- ・第40回斎王まつり 【斎王まつり実行委員会】 6月3日
- ・めいわ観光まちづくり講座 【明和町・観光商社】 7月2日、7月25日
研究会 9月1日、9月14日、9月30日
- ・町政65周年記念めいわまち巡りスタンプラリー 【明和町】 9月3日～12月3日
- ・斎宮満月 yoga 【めいわセラピーガイド協会】 9月29日
- ・第20回いつきのみや観月会 【保存協会】 9月29日
- ・斎宮コスプレ物語 【保存協会】 10月14日
- ・こどもわいわいハロウィンパーティー 【日本遺産協議会・いつきのみや MARKET】 10月15日

- ・史跡斎宮跡第 205 次 1 区発掘調査現地説明会&歴史体感イベント（古代衣装体験・墨書土器体験）
【斎宮歴史博物館】 10 月 21 日
- ・国史跡斎宮跡平安絵巻プロジェクトマッピング 2023 相川七瀬コラボレーションライブ
【斎宮文化観光推進協議会】 11 月 3 日～5 日
- ・斎宮奉納薪能 【斎宮文化観光推進協議会】 11 月 4 日
- ・斎王の庭空と風の花ばたけお花植えイベント 【観光商社】 11 月 8 日～11 日
- ・こどもわいわい音楽と遊びのスペシャルサンデー 【日本遺産協議会】 11 月 12 日
- ・伊勢麻里で書いた斎展 【観光商社】 12 月 5 日～10 日
- ・めいわ mobi 巡りスタンプラリー 【観光商社】 12 月 5 日～12 月 26 日
- ・大根収穫・はさ掛け体験会 【合同会社アドバンスカンパニー】 12 月 22 日、23 日、25 日
- ・斎宮大甕と百鬼夜行 【観光商社】 12 月 31 日
- ・新春斎宮奉納薪能 【斎宮文化観光推進協議会】 2 月 2 日＊中央公民館で開催
- ・まちかど博物館 いつきのみや宮と生活の博物館 漂標 ちりめん人形教室展 2 月
- ・こどもわいわいフェスティバル 【日本遺産協議会】 3 月 10 日
- ・まちかど博物館 いつきのみや宮と生活の博物館 漂標 伊勢飄うるしめり展 3 月

<定期開催>

- ・インターネットラジオ局「斎宮すたじお」で斎宮跡等の話題を情報発信。毎週金曜日 30 分番組 2 本を放送
- ・SPECIAL SUNDAY【個人】 毎月第 2 日曜
- ・竹神社満月参り、花手水【竹神社】
- ・満月屋台【観光商社】
- ・さいくう市 毎月第 1・第 3 日曜日に開催【保存協会】
- ・＃あしもとから@史跡斎宮跡リフレッシュウォーク 毎月 15 日に実施【個人】
- ・日本遺産「斎宮」ストレッチセラピー【ionotot 主催】
- ・鎮守の森楽社～竹神社～ 【観光商社】 5 月 5 日、5 月 6 日、8 月 2 日、8 月 31 日、12 月 16 日、3 月 10 日
- ・まちかど博物館 竹若舎（毎月 5 日、10 日、15 日、20 日、25 日、30 日開催）

<公園利用>：利用申請件数 48 件 申請を伴わない学校の利用：40 校

<連携など>

- ・斎宮歴史博物館と連携の島根県立古代出雲歴史博物館において、斎宮跡の出張パネル展（10 月 13 日～12 月 10 日）を実施。来場者約 2 万人。
- ・常滑市文化財保護審議会 現地視察対応 2 月 29 日
- ・「史跡久留倍官衙遺跡」（四日市市）との連携協定に基づき、久留倍官衙遺跡パネル展（3 月 19 日～4 月 21 日）をさいくう平安の杜で開催。来場者 865 人

第4章 天然記念物

斎宮のハナショウブ群落

1. 開花状況（過去3年分も合わせて表示）

	一輪目	咲き始め	満開	終了
R5	5月24日	5月26日	6月8日	6月23日
R4	5月26日	5月27日	6月8日	6月22日
R3	5月24日	5月24日	6月7日	6月15日
R2	5月28日	5月29日	6月11日	6月19日



2. 現状変更等許可申請

指定地内に設置されてきた指定名称標柱について、東方向に傾き危険であること、来訪者から指定名称が見えにくい状況だったことから、令和5年11月1日付で現状変更等許可申請を行い、同日付で三重県教育委員会教育長より許可を得て、令和6年2月15日に標柱を指定地外に移設した。

なお、標柱の規模および文面は以下のとおり。

<規模>

石柱部：高さ：170 cm、幅 24 cm×18 cm、台座部：

高さ：78 cm、幅 86 cm×84 cm

<銘文>

東面：「天然記念物斎宮花菖蒲群落」、北面：「昭和十一年十二月十六日指定」、

西面：「文化財保護委員会」、南面「昭和三十三年七月一日建立」＊面は現在の方角



標柱移設状況



標柱移設後

第5章 埋蔵文化財

1. 周知の埋蔵文化財包蔵地における発掘届出

・届出件数

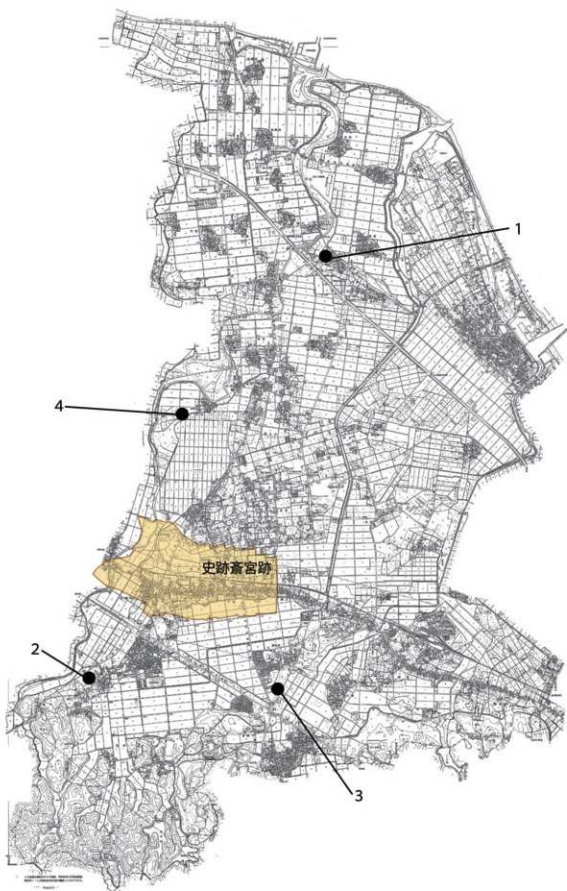
文化財保護法第93条第1項の規定による土木工事等発掘届出の受理：17件

・発掘調査

調査は明和町斎宮跡・文化観光課文化財係が行った。緊急発掘調査を実施したのは1件、範囲確認調査は3件、工事立会は8件である。その内、発掘調査については下記一覧表のとおりである。調査の内、主要なものについて次節で概要を報告する。ただし、報告の内容は現在も整理中のため、あくまで暫定的なものである。

令和5年度 緊急発掘調査・範囲確認調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積 (㎡)	申請者名	備考
1	西浦遺跡	行部字西浦 1310	1月16日～ 3月15日	76	社会福祉法人 伊勢電鈴会	井戸跡、土坑、ピット
2	城堀遺跡	上村字城堀 1309-30	5月10日～ 6月6日	96	有限会社 ホームタウン	溝など ＊範囲確認調査
3	北野遺跡	袋村字順礼野 370番2外17 筆	7月18日～ 10月31日	360	株式会社 ベーシック	竪穴建物3基、掘立柱建 物、土師器焼成坑6基、粘 土貯蔵穴、土坑、溝等 範囲確認調査
4	麻績神社西 方遺跡	中海字古川 546番地外18筆	10月17日～ 10月19日	50	松阪興産株式会社	遺構なし 範囲確認調査



2. 主要調査の概要

No.1

遺 跡 名: 西浦遺跡

遺跡番号: 243

調 査 地: 明和町大字行部字西浦 131 番地

事業主体: 社会福祉法人伊勢亀鈴会

調査原因: 福祉施設建設

費用負担: 原因者

調査機関: 明和町斎宮跡・文化観光課

担 当 者: 中澤郁巳

調査期間: 令和 6 年 1 月 16 日～3 月 15 日

調査面積: 約 76 m²



調査地位置図 (1:5000)

【概要】

砂堆上西側に発掘調査を実施した。西浦遺跡については平成26年度の施設建設時調査において遺構面が二層あることが確認できていた為、本調査においても上層の遺構を調査後、一部範囲で下層の遺構も調査を行うこととした。結果、上層から土坑、ピットを検出し、出土遺物から中世のものと考えられる。主な出土品は土師器（皿、甕、羽釜）、山茶碗、青磁器、土鍾、鉄製品、銭貨（嘉徳通宝）である。下層からは調査区中央に直径約4.5mの井戸跡と推定される円形の遺構、その北側から幅約3.5mの隅丸方形の遺構が確認された。主な出土遺物は土師器（皿、甕、羽釜）、水甕、山茶碗、硯、鉄製品である。下層についても、時期は遺物から中世のものと考えられる。

また、2月13日に発掘調査現場の現地公開を行い、地元住民を中心に8名の参加があった。

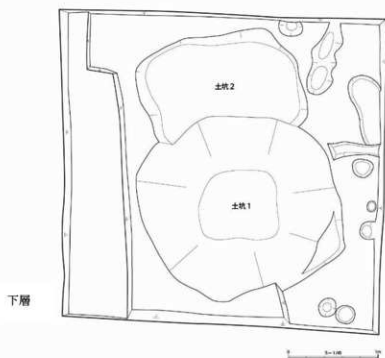
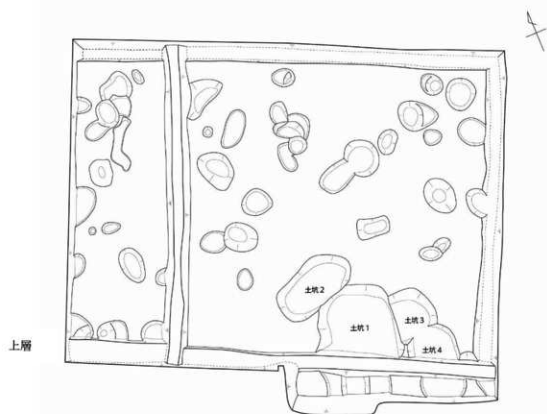
なお、調査内容については現在整理中であり、別途報告書を作成予定である。



上層調査区全景（南東から）



上層調査区全景（南東から）



西浦遺跡発掘調査 遺構平面略図

No.2 ＊範囲確認調査

遺 跡 名：城堀遺跡

遺跡番号：170

調 査 地：明和町大字上村字城堀 1309-30

事業主体：有限会社ホームタウン

調査原因：宅地造成

費用負担：明和町

調査機関：明和町富宮跡・文化観光課

担 当 者：中澤郁巳

調査期間：令和5年5月10日～6月6日

調査面積：96 m²



調査地位位置図 (1 : 5000)

【概要】

今回の調査において第1トレンチと第2トレンチで土取りの痕跡が確認できた。過去の周辺での調査成果も踏まえると、城堀遺跡内の土取り状況について県道側一帯から今回の調査部分の一部にわたり行われたことが確認できた。

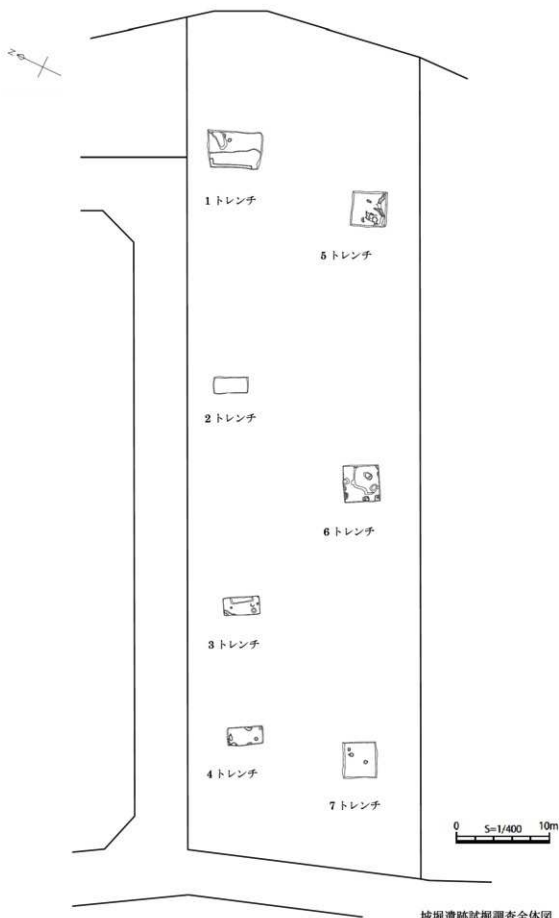
遺構面については申請地のほとんどの範囲で残されていることが確認できたが、攪乱の痕跡が多く、全体の遺構密度は薄い。ただし、第3トレンチでは、東側中央に隅が丸みを帯びる長方形と思われる長さ約2.5m、幅0.7m以上、深さ約0.36mの土坑が確認できた。土坑内の埋土からは小皿を含む多数の土師器片、無紋の銭貨が1点出土した。この土坑の時期については上層が攪乱により失われており、層位による判断できなかったが、遺物から近世のものであると考えられる。土坑の性格について平面プランが隅丸の長方形を呈すことから木棺を据える墓壇の可能性が考えられたが、掘削時の状況および断面からは木棺の痕跡等は確認できなかった。土坑が墓壇であるかについては明確ではない。また土師器片などの土器類をはじめとする出土品については中世から近世のものが多く、表土や包含層からの出土が主であり、遺構に伴う遺物は僅かであった。



第1トレンチ遺構掘削状況（南東から）



第3トレンチ遺構掘削状況（北西から）



城堀遺跡試掘調査全体図

No.3 ＊範囲確認調査

遺 跡 名：北野遺跡

遺跡番号：228

調 査 地：明和町大字養村字順礼野
370番2ほか17筆

事業主体：株式会社ベーシック

調査原因：土地造成工事

費用負担：明和町

調査機関：明和町斎宮跡・文化観光課

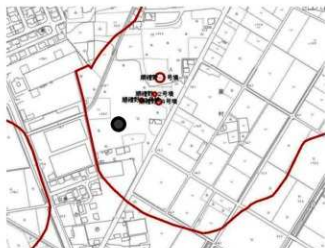
担 当 者：中澤郁巳

調査期間：令和5年7月18日～10月31日

調査面積：360㎡

【概要】

堅穴建物3基、掘立柱建物、土師器焼成坑6基、粘土貯蔵穴、土坑、溝等の遺構が確認された。古墳時代後期から奈良時代の土師器、須恵器、土製紡錘車等が出土した。



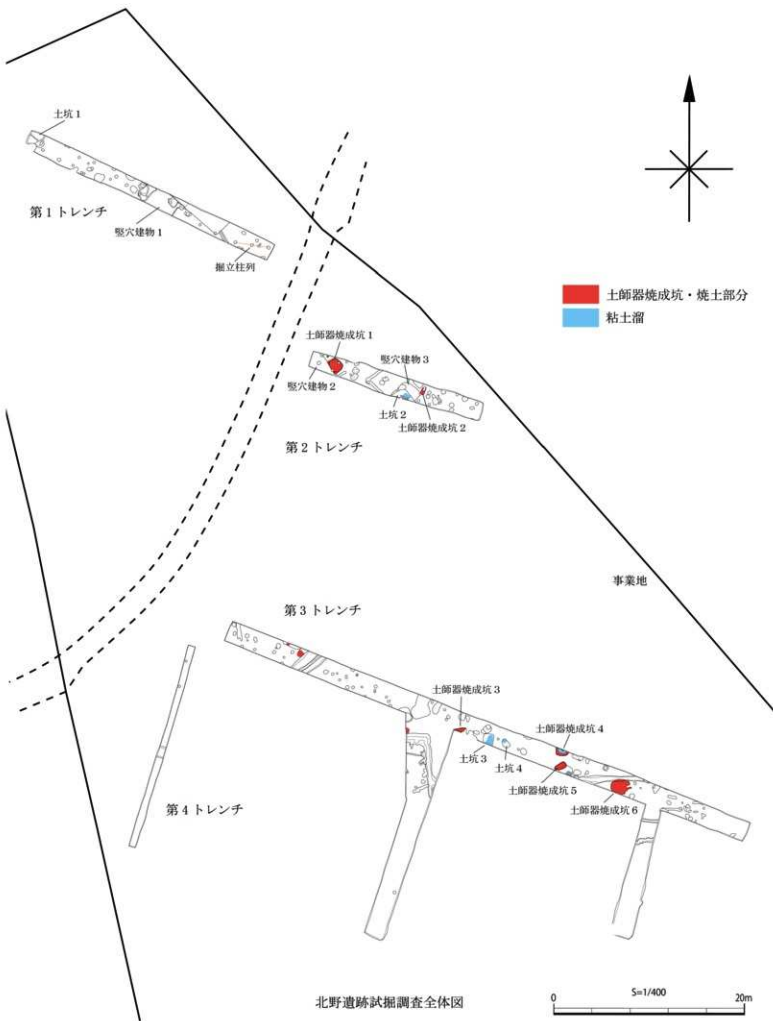
調査地位位置図（1：5000）



第2トレンチ遺構掘削状況（北西から）



第3トレンチ遺構掘削状況（北西から）



No.3 ＊範囲確認調査

遺 跡 名：麻績神社西方遺跡

遺跡番号：310

調 査 地：明和町大字中海

字古川 1546 番地外 18 筆

事業主体：松阪興産株式会社

調査原因：砂利採取

費用負担：明和町

調査機関：明和町富宮跡・文化観光課

担 当 者：味噌井拓志

調査期間：令和5年10月17日～10月19日

調査面積：50 m²



調査地位位置図（1：5000）

【概要】

調査では3カ所（4×4 m）に調査区を設定し遺構の有無を確認した。すべての調査で明確な遺構は確認できなかった。また、麻績神社西方遺跡を含む本事業地周辺については、昭和58年度に県営の圃場整備事業に伴い三県教育委員会の試掘調査が実施されているが、遺構は確認されず河川氾濫によって流れ込んだ遺物を確認しただけにとどまっている。その後、大規模な圃場整備も実施され、大部分はかつての地形から大きく改変も受けていることが予想される。



調査区1（左上）東から

調査区2（右上）東から

調査区3（左下）南から

3. 企画展「明星地区の古代の暮らし」

場所：小林農産ふるさと会館 会期：7月15日～8月27日 観覧者数：151名

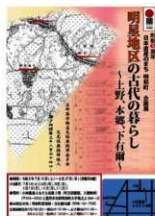
<展示解説会・子ども向けクイズ> 7月23日 参加者数：22名 8月6日 参加者数：25名

<斎王かみしばい かわせみ座> ながこひめの斎王絵日記 いせの巻 8月20日

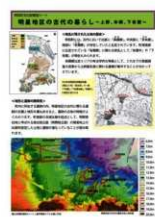
企画展に合わせて明和町文化財解説シート「明星地区の古代の暮らし」を作成した。



子ども向けクイズ



展示状況



文化財解説シート

4. 貸出・資料提供

通年：斎宮歴史博物館 水池土器製作遺跡出土土師器計4点 常設展にて展示

通年：安養寺 安養寺跡の発掘調査出土品（青磁香炉など計18点）の展示

通年：JA 明和南支店 北野遺跡の発掘調査出土品の展示

随時：中央公民館郷土史講座への画像等の提供

5. 出講

2月8日 令和5年度第2回三重県埋蔵文化財担当者会議 安養寺跡の事例紹介

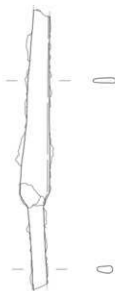
6. 保存処理

令和5年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(史町内遺跡 発掘調査等 事業)を活用し、令和2年度に町内の金剛坂遺跡で実施した宅地造成に伴う発掘調査(第20次)で出土した金属製の保存処理を実施した。保存処理は計4点で、一般社団法人文化財科学研究センターに委託した。

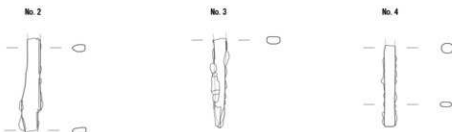
保存処理前の段階ではヤリガンナ1点、鉄釘3点と考えていたが、保存処理の結果、刀子2点、鉄釘2点であることが判明した。刀子(№1)は、切先と基部の両端を欠く状態で、基部は細く、関はナデ形の両関である。残存する長さ14.9cmで、最大幅約1.6cmである。刀子(№2)は、刃部と関の一部が残存している。関は棟側の角関で、基部にわずかに有機質状の付着物が認められ、残存長さ5.0cm、最大幅約1.0cmで小型である。その他、詳細な計測値は別表のとおり。

刀子が出土した遺構は、堅穴建物(SI8)で、北東コーナー部分が弧状を呈しやや不定形な平面プランで、東西方向最大幅約3.8m、南北方向最大幅約3.5m、深さ約0.25mである。建物に伴う柱穴は確認できず、明確な硬化面も確認できなかった。出土した土器から奈良時代中頃から後半の時期だと考えられる。当該遺跡は史跡斎宮跡にも近く、発掘調査全体としても古代の遺構がこの時期に限定されることから、斎宮造営に伴う官人が用いたものの可能性も想定され、今回の保存処理を通じて得られた知見は今後発掘調査全体の評価に活かしていく予定である。

No. 1



金属処理を施した遺物実測図(処理後) 1/2



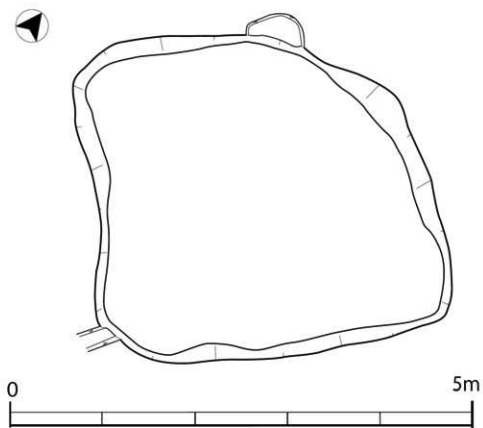
処理 No.	実測 No.	遺物種類	材質	法量 (cm・g)			
				処理 現存長	最大幅	最大厚	重量
1	1	刀子	鉄	前	10.7/4.5	1.9/1.1	0.9/0.4
				後	14.9	1.6	0.4
2	2	刀子	鉄	前	5.0	1.9	1.3
				後	5.0	1.0	0.5
3	3	鉄釘	鉄	前	4.8	0.8	0.5
				後	4.7	0.7	0.5
4	4	鉄釘	鉄	前	3.2/1.4	1.1/1.1	0.7/0.8
				後	4.3	0.6	0.5



保存処理前



保存処理後



SI8 平面図 (S=1/40)



SI8 (北から)

第6章 その他の文化財・日本遺産など

1. 有形文化財

8月18日：中町 蓮光寺関係資料調査

2. 無形民俗文化財等

2-1. 調査など

6月25日 算所 算所の浅間行事

6月25日：上村 上村のシメナワ日待ち（中組）

6月25日：上村 上村のシメナワ日待ち（東組）

12月26日～28日、1月4日 町内各地のしめ縄飾り調査

○算所の浅間行事調査概要

調査日：令和5年6月25日（日）午前

- ・算所集落の正法寺境内にて準備を行う（8時頃から）
- ・6月の最終日曜日に実施
- ・算所の北組、中組、南組から各2名が輪番で参加（※本年度は5名）
- ・しめ縄、幣、竹を用意、稲わらは昨年収穫のものを利用
- ・権現さん、権現松入り口、遥拝所（山の神）の三か所分を用意
- ・10時頃、正法寺を出発し、遥拝所・権現さんにて飾り付け
- ・かつては権現さんと呼ばれるヒノキの神木の頂上に取り付けていたが、現在は根本に設置
- ・遥拝所にて装束をまとい、権現松を遥拝し、しめ縄かざりにも拝礼
- ・拝礼後、権現松へ法螺貝を吹きながら移動し、お神酒、米、塩を備え、拝礼し終了
- ・かつては蔵川から引き込んだ近傍の水路にて水垢離をし、「セケダイ、セケダイ、ナムセケダイ（浅間、浅間、南無浅間）」と唱えたという。



正法寺でのシメ飾りとシデ作り



設置場所への移動



遥拝所での飾りつけ作業



飾りつけ後



遥拝所から権現さんへの遥拝



ほら貝を吹きながら権現さんへ移動



権現さん入口への飾りつけ作業



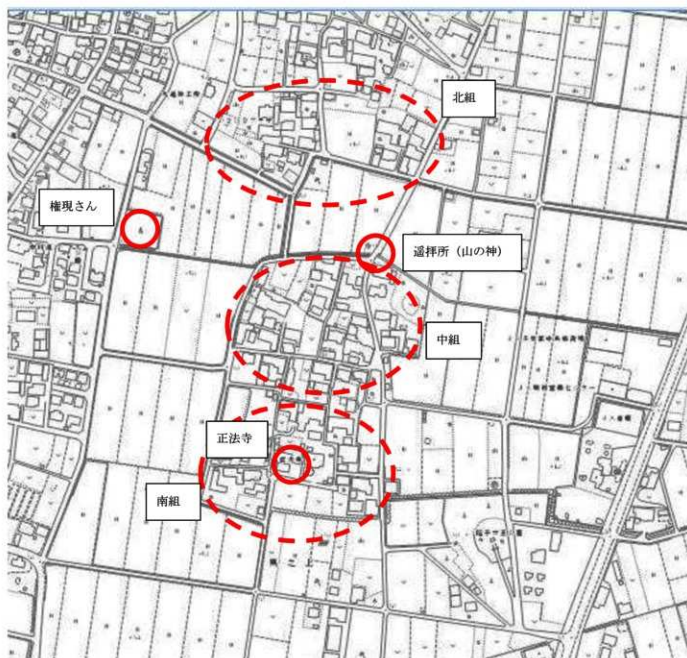
権現さんへ取り付けられたシメ飾り



権現さんの根元へお神酒を掛ける



権現さんへ関係者の礼拝



算所の浅間行事 関係位置図

○上村のシメナワ日待ち（東組）調査概要

上村自治会中組で実施されている上村のシメナワ日待ちの町指定無形民俗文化財指定への調査で、上村自治会の他の組でもかつてはシメナワ日待ちがあったことや、東組でも同日に実施していることがわかったため現況確認を行った。

調査日：令和5年6月25日（日）午後5時～

東組では、午後5時頃に組の人びとが大日寺に参集し、行事を実施していた。組頭にあたる家がシメナワ（既製品）を用意し、大日寺境内に祀られている庚申塔の内、かつて東組内に祀られていた庚申塔に新しいシメナワを取り付け、お神酒をかけ、組の人びとが参拝を行っていた。

聞き取りによれば、東組においても中組と同様にかつては道にシメナワを掛け渡していたとのことである。場所は、東組と隣合う麻生自治会との字界付近の集落の入口に当たり、現在も未舗装の赤道となっている。実施時期や場所、庚申塔への参拝など中組の内容と共通することが多く、かつては上村自治会において組単位で実施されていたシメナワ日待ちを考える上で貴重な情報が得られた。



上村のシメナワ日待ち（東組）関係位置図



大日寺境内に祀られた庚申塔に新しいシメナワを重ねる



シメナワを掛けた後、庚申塔にお神酒をかける



東組の人びとが順番に庚申塔に参拝する

2-2. 開催状況 当課で実施状況が確認できたものを記載した。

上村のシメナワ日待ち：実施（6月25日）

算所の浅間行事：実施（6月25日）

佐田西出天王さんのお社塔：実施（7月9日）

義村虫送り：開催（7月13日）

宇爾櫻神社かんこ踊り：開催（7月16日）

大淀祇園祭：開催（7月28日、29日）

志貴の精霊相撲：実施（8月16日）

中村の安産祈祷相撲：実施（8月23日）

池村の道切行事：東池村・中池村12月実施に日程変更、しめ縄は購入品を使い簡素化し実施

前野のお頭神事：開催（2月11日）

3. 方言調査

明和町で使われている方言を、実際に使っている人の「生きた声」で残すことを目的に、3月23日、斎宮ガイドボランティアの方々にご協力いただき、古代から残ることばに焦点を当て、明和町の方言調査を実施した。調査内容は明和町行政チャンネルにて特別番組「しゃべって残そに めいわの方言 Part 2」として放送され、町の Youtube 公式チャンネルで公開している。番組の製作にあたっては、斎宮歴史博物館榎村寛之氏の協力を得た。

<採録した方言>

かいだるい、だんない、ずつない、米をかす、おじや、よさり、あまめ、ごとひき、げりご、いだいだ



取材状況 製作した番組は Youtube で公開中

4. 寄贈・寄託

個人（新茶屋）和泉屋：講看板、引き札版木、古文書等



和泉屋資料（一部）

第7章 学校教育関係

1. 出前授業

当課では、明和町教育委員会と協力し、教員向けの研修や町内各校への出前授業などを実施した。なお、詳細は役場ホームページに公開している。

- 6月8日：斎宮小学校3年生 校区探検
防空壕資料提供
- 6月19日：明星小学校3年生 校区探検
水池土器製作遺跡
- 6月29日：下御糸小学校4年生
隆子女王の墓見学対応
- 7月25日：上御糸小学校教員向け研修
(斎宮歴史博物館)
- 8月3日：下御糸小学校教員向け研修
大淀海岸(カヤック)
- 8月18日：夏季教職員研修
日本遺産構成文化財案内
- 8月23日：郡教研 社会科部会事例紹介
- 8月30日：明星小学校教員向け研修
- 11月：斎宮小学校 校区探検 資料提供
- 1月25日：明星小学校3年生
宇賀櫻神社天王踊り
- 2月15日：明星小学校3年生 養村虫送り



水池土器製作遺跡での解説会



下御糸小学校教員向けの日本遺産研修

2. 地域学習交流事業

地域学習交流事業として、斎宮跡、日本遺産への児童の理解・関心を高めるため、関係施設等への校外学習に必要なバス費用について、補助を行った。(※学校間交流分は記載していない)

- 6月29日：下御糸小学校(3年) 隆子女王の墓、竹神社ほか
- 7月3日：下御糸小学校(5年) 大淀海岸キャンプ場、葉平松
- 9月26日：大淀小学校(3年) 斎宮歴史博物館
- 9月28日：斎宮小学校(3年) 史跡水池土器製作遺跡、斎宮歴史博物館
- 10月4日：明星小学校(4年) 斎宮跡(ふるさと芝生広場)ほか
- 10月19日：下御糸小学校(2年) 竹神社ほか
- 10月20日：下御糸小学校(4年) 竹神社、伊勢広域清掃
- 10月26日：下御糸小学校(3年) いつきのみや歴史体験館

- 11月7日：明星小学校（1、2年） 葉平松
 11月7日：明星小学校（3年） いつきのみや歴史体験館
 11月8日：下御糸小学校（3年） いつきのみや歴史体験館ほか
 11月29日：上御糸小学校（3年） 斎宮歴史博物館

3. 副読本検討会

校区再編や小中一貫教育などに合わせ「仮称めいわ科」の副読本作成やカリキュラムの検討に向けて、当課職員も検討会に参加している。本年度は計11回の検討会が開催された。

検討会の成果として、地方創生交付金を活用し、小学3～6年生を対象とした郷土学習用副読本（デジタルデータ）を製作し、役場ホームページにおいて公開した。今後の郷土学習で活用される予定である。



検討会のようす

4. みえ祭り協力隊

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課が実施した「みえ祭り協力隊」事業の訪問先の一つとして大淀の祇園祭が選ばれ、町としても協力隊の受入をサポートした。

事業では中学生1名、小学生3名、計4名（町外）が祭りに参加し、地元関係者から祭りの魅力について直接説明を受けたほか、実際に山車を引く経験などを行った。

また、12月23日は三重県総合文化センターで、発表会が行われ、地元関係者も発表を聞いた。

事業を通じて、大淀の祇園祭の魅力が広く知られ、今後の次世代への継承に向けて、町内のみならず幅広い支援に広がることが期待されるとともに、小中学生への説明を通じて地元関係者の当該行事の文化財的魅力の再認識につながることが期待される。



地元関係者から説明を受ける協力隊

5. その他

当課では、4月に明和町へ新たに着任した教員に対し、「文化財資料キット」を配布し、授業での活用を呼び掛けている。キットの内容は以下のとおり。

- ・ 出前授業の呼びかけ



文化財資料キット

- ・さいくうあと通信
- ・文化財解説シート
- ・マンガ本
- ・どんど花（チラシ）
- ・文化財授業例（HPより）
- ・各種リーフレット（かわせみ座、博物館、体験館、平安の杜、坂本古墳群、交流センター）

また、町内各小学校5年生へ日本遺産マンガ本の配布を行っている。

第8章 講座などの普及啓発活動、その他

1. めいわ文化遺産講座

当課が事務局である明和町日本遺産活用推進協議会において、町内全域の文化遺産を対象とした「めいわ文化遺産講座」を開催した。この事業は、昨年度まで文化庁の補助を得て実施した「めいわ文化遺産連続講座」に続く形で実施したものである。内容については以下のとおり。なお、講演内容等はYoutubeにおいて当課公式チャンネルで公開している。

令和5年1月21日 42名

①講演：「みなさんにとっての「文化遺産」とは何ですか？」

講師：伊藤文彦氏（三重県環境生活部文化振興課）

②参加者による発表会

「私のおススメのめいわ文化遺産」

③シンポジウム「イチオシのめいわ文化遺産」

登壇者：板村寛之氏（斎宮歴史博物館）、伊藤文彦氏、乾哲也、中澤郁巳

司 会：味噌井拓志



講演実施状況



発表会実施状況



発表者には発表内容を桜革紙製のポストカードにて記念に配布した。

(地域おこし協力隊北田智里氏による製作)

見たい！知りたいたい！伝えたい！

令和5年度 めいわ文化遺産講座

梅田町には歴史遺産が数多く残っており、その魅力を伝えるべく、令和5年度「めいわ文化遺産講座」を開催いたします。本講座は、梅田町の歴史遺産について、その魅力を伝えるべく、令和5年度「めいわ文化遺産講座」を開催いたします。

① 講演
「みなさんにとっての「文化遺産」とは何ですか？」
三浦麻理子 歴史文化研究員 伊藤 大祐 氏

② 季節会による勉強会
「私のオススメのめいわ文化遺産」各2～3分程度
コメンター：宮宮史実 氏 藤村 寛之 氏

③ シンポジウム
「イチャオシのめいわ文化遺産」
講師：藤村 寛之 氏、伊藤 大祐 氏、伊藤 大祐 氏、伊藤 大祐 氏

④ 講演
「梅田町の歴史遺産について」
講師：伊藤 大祐 氏、伊藤 大祐 氏、伊藤 大祐 氏、伊藤 大祐 氏

⑤ 講演
「梅田町の歴史遺産について」
講師：伊藤 大祐 氏、伊藤 大祐 氏、伊藤 大祐 氏、伊藤 大祐 氏

2. 講座・イベントなど

4 月：役場新人職員向け畜宮跡等の研修

7月25日：郷土史同好会にて「多くの古墳が造られたまち」として講演 12名

10月30日：明和観光商社製作「すゑひろがりずの mobi で明和町 雅発見旅！」で県史跡坂本古墳群の案内。

11月15日：転輪寺（明星）「カフェ寺ス」にて「明星地区の古代の歴史」として講演 22名

12月16日：皇學館大学地域連携協働公開講座として同大文学部准教授谷戸紀氏による講演会「古文書・古記録から読み解く郷土の歴史—江戸時代の明和町—」を開催した。82名
なお、講演内容はYoutubeにおいて当課公式チャンネルで公開している。

11月1日：文化財防災訓練 いつきのみや歴史体験館

1月24日：文化財防災訓練 さいくう平安の杜、いつきのみや地域交流センターにて実施



「古文書・古記録から読み解く郷土の歴史—江戸時代の明和町—」のようす

皇學館大学
① 明和町 地域連携公開講座
古文書・古記録から読み解く郷土の歴史
—江戸時代の明和町—

講師：谷戸 紀 氏
皇學館大学 文学部国文学科 准教授
(明和町文化財保護委員会)

日時：令和5年12月16日（土）13:30～15:00（受付：13:00～）
場所：いつきのみや地域交流センター（皇學館大学東山校舎2階211）

定 額：無料
定員：50名
お問い合わせ：皇學館大学 東山校舎 明和町文化財保護委員会 0846-52-7116

刊行物

3-1. さいくうあとと通信

令和5年度は第37、38号を発行した。

37号 発行日：3月1日

「南勢地域屈指の古古墳 高塚1号墳に注目を!!」

38号 発行日：3月19日

「明和の山の神 ～中海の山の神とどんど焼き～」



令和5年度に刊行した「さいくうあとと通信」

3-2. 文化財解説シート

「明星地区の古代の暮らし」

3-3. 史跡斎宮跡 令和4年度現状変更新緊急発掘調査

*これらの刊行物はインターネット上の全国遺跡報告総覧で閲覧できる。

4. 問い合わせ対応、資料調査対応など

5月：有郷郷の地名について（個人）

6月：佐田西出天王さんのお社塔について（個人）、そうめん坂の由来について（個人）、養村虫送りについて（個人）、斎宮のハナショウブ群落について（個人）、養村虫送り・宇爾櫻神社天王踊りについて（個人）

8月：伊勢街道の道標について（個人）、大淀の祇園祭の火花について（個人）

11月：前野神社について（個人）

12月：大淀の読み方について（個人）

1月：津島信仰について（個人）、茅について（個人）

2月：志貴の神社について（個人）

3月：明治期の行政区分について（個人）

5. 文化財保護関係団体などの活動

・史跡斎宮跡の植栽（町民等参加）

6月16日：史跡斎宮跡植栽計画推進委員会

11月18日：菜の花種まき 参加者49名

・呉竹倶楽部

さいくう平安の杜、近鉄斎宮駅北口休憩所の施設、駅構内の植栽、各種イベントへの参加等

・いつきのみやガイドボランティア

案内件数：744件、ガイド人数：2,488名

・明和町郷土文化を守る会

古文書講座の開催

(皇學館大学谷戸佑紀氏講師)

- 11月3日、4日：町民文化祭にて、高塚1号墳、町内の寺院等について紹介
- 11月25日：高塚1号墳現地見学会
- 2月17日：高塚1号墳関連講演会

・斎王紙芝居かわせみ座

8月20日：当課企画展に合わせて開催

(小林農産ふるさと会館)

2月1日：斎宮小学校4年生 対象

・有爾中天王踊り保存会

1月25日：明星小学校3年生 授業



古文書講座



町民文化祭



明星小学校での天王踊りの授業



高塚1号墳 現地説明会

6. 関連新聞記事等一覧

※当課で把握できた文化財係に関連する新聞記事等を基に作成した。把握できたものの以外にも関連記事がある可能性がある。

日付	発行機関	記事タイトル
4月4日	タ刊三重	明和町「伊勢麻」振興で1人採用 地域おこし協力隊員 皇學館大(神道学科)卒の中村さん(斎宮)
4月7日	タ刊三重	「絵の中の物語」を表現 伊藤さん(松名瀬町)が作品25点 明和町斎宮の「薄櫻」で
4月8日	タ刊三重	7月29日、大淀祇園祭 完全開催の無事祈願 竹大興神社で関係者ら 4年ぶり、山車巡行や花火
4月16日	伊勢新聞	産学官8団体振興プロジェクト 斎宮跡で麻の種まき神事 明和町
4月17日	タ刊三重	天津曹麻プロジェクト 麻栽培の成功を祈願 いつきのみや地域交流所で 明和町など関係者、種まき神事
4月17日	タ刊三重	斎宮と麻の関わりなど テーマに記念講演会 斎宮歴博の榎科芸員ら
4月17日	タ刊三重	日本文化、体験で交流 めいわ国際交流実行委 在日外国人ら19人
4月18日	中日新聞	麻利用の歴史などを紹介 明和 産業用栽培開始に合わせ講演会
4月19日	中日新聞	【斎宮の麻畑から】大正時代の木製道具で種まき 糸の原料や研究試料に活用へ
4月19日	タ刊三重	花をめぐる平安文化 斎宮歴博で春季企画展 和歌やびょうぶなど30点
4月24日	伊勢新聞	【まる見え三重リポート670】「麻の聖地」で栽培復活 明和町・天津曹麻プロジェクト 産学官8団体、産業振興へ
4月25日	中日新聞	斎宮跡との関わり/御糸織工場見学 明和の文化講座 動画公開 町が13本を投稿サイトに
5月1日	中日新聞	今も昔も 花愛する人びと 古代～近世の文化紹介する企画展 明和・斎宮歴史博物館
5月6日	中日新聞	斎王想起の女性など表現 明和 竹神社の満月展「御朱印原画展」
5月17日	中日新聞	【みえ人模様】ともに成長 人の役に 大麻の栽培や活用をPRする 中村環樹さん
5月22日	タ刊三重	内宮で斎王の舞 来月「まつり」でも披露 保存会「つばき組」、明和中の5人 現代と古代融合、20年前作
5月24日	中日新聞	斎王まつりPR 機運盛り上げ 来月3日開催、出演者ら県庁訪問
5月24日	タ刊三重	【すがお】地域で人と関わりたい 地域おこし協力隊員として麻の普及を 中村環樹さん(23)
5月24日	タ刊三重	来月3日、40回目の斎王まつり 節目の年「盛り上げたい」 斎王役の山中さんら、一見知事にPR
5月25日	タ刊三重	みいと織り(松坂木綿)、普及へ 明和町地域おこし協力隊 鳥取から松原さんが技術継承 まず製造工程から学ぶ
5月27日	タ刊三重	井戸跡から出土した土器 斎宮歴博で連続展 祭祀で使った台付鉢など展示
5月28日	中日新聞	斎宮の臨場感 味わいながら 明和、全4回講座始まる
5月30日	中日新聞	斎王まつり限定御朱印「盛り上げにつなげば」
5月30日	中日新聞	【人情ものがたり】第3話・斎王まつり ①斎王役 山中深月さん 憧れ大役 未来へ祈る
5月31日	中日新聞	【人情ものがたり】第3話・斎王まつり ②実行委相談役 東谷泰明さん 情熱傾け豪華絢爛に
5月31日	タ刊三重	絵馬ちなむ図本と能面 斎宮歴博で「造品」展
5月31日	タ刊三重	第40回斎王まつり 永遠につづく斎王の祈り 月あかりの下でミニ群行や記念花火
6月1日	中日新聞	【人情ものがたり】第3話・斎王まつり ③OG会「小町」代表 黒江洲乃乃さん 思返し 出演者つなぐ
6月1日	タ刊三重	24日に「斎宮学講座」第1回の受講幕 年5回、斎宮歴博で
6月2日	中日新聞	【人情ものがたり】第3話・斎王まつり ④実行委審判付添 菊矢照子さん 役者光らせる化粧筆
6月2日	中日新聞	40回記念 夜間群行や花火 明和であす 斎王まつり

日付	発行機関	記事タイトル
6月2日	タ刊三重	初の「月明りの群行」など 小雨の場合はコース変更 明和町斎宮で あす午後1時から斎王まつり
6月3日	伊勢新聞	「斎王まつり」に合わせ関連展示 明和町の博物館 きょうから
6月3日	タ刊三重	9日からイブニング講座 第1回テーマは神仏習合 斎宮歴博
6月4日	毎日新聞	青空の下 みやびに群行 「斎王まつり」明和にぎわう
6月4日	朝日新聞	斎王まつり 優雅な平安絵巻 明和
6月4日	伊勢新聞	あでやか「斎王群行」 明和町斎宮跡 山中さんら、まつりで再現
6月4日	中日新聞	華やか行列 歴史に彩り 明和で斎王まつり 今年で40回目
6月5日	タ刊三重	みやびな平安絵巻、夜も群行 明和町斎宮で 斎王まつり
6月6日	中日新聞	斎王まつりに 月と花火も彩り 夜も特別イベント
6月6日	タ刊三重	雲がたなびく眺め 明和町斎宮でノハナショウブ
6月7日	伊勢新聞	斎王殿舎の発見に期待 明和町・斎宮歴史博物館 発掘現場の公開始まる
6月8日	タ刊三重	斎宮跡 発掘調査、気軽に見学を 斎宮歴博 火・水・金・土曜に現場公開(第205次調査地)
6月9日	中日新聞	心癒やす力 今も昔も 原種ノハナショウブ一面 国天然記念物 斎宮の群落で
6月12日	タ刊三重	古典文学の世界、関近に 斎宮歴博展示 実物大の「伊勢物語因房風」など
6月13日	中日新聞	【G7交通相会合 伊勢志摩】トップの視点 ①一見勝之知事 県の四季や産業をPR
6月13日	タ刊三重	明和町議会 歴史的遺産の活用を 新聞氏一般質問 町「地域と連携し支援」
6月15日	タ刊三重	県議会 観光の核に斎宮歴博など 中瀬古氏 質問に県 文化施設生かすルート確立
6月20日	中日新聞	【G7交通相会合伊勢志摩】明和の電動車、松阪・大台の菓子など移動で味でおもてなし明和観光商社「牛車」開催ら体験
6月20日	タ刊三重	会長に潮田さん(有明中) 臨時総会開く 明和町郷土文化を守る会
6月20日	タ刊三重	眞師かんこ語りや大淀祇園祭など 子供目線で体験発信 県教委が5祭の協力隊員募る
6月20日	伊勢新聞	みえ祭協力隊を募集 県教育委員会 小中高生を対象に
6月21日	中日新聞	子ども目線で祭りPRを 小中高生対象に協力隊募集 県教委、26日から
6月26日	タ刊三重	「初代斎王は女帝候補か」 斎宮歴博講座 120人聴講 榎村さん、大来皇女で持論も
6月28日	中日新聞	「シメナフ日待ち」 竹にくり魔除け 明和・上村自治会
7月3日	三重テレビ放送	三山車揃い踏みや打ち上げ花火など今年は史上最大規模に 270年続く大淀祇園祭 三重・明和町
7月4日	タ刊三重	7月限定「七夕御朱印」も頒布 茅の輪くぐり健康願う 竹神社(明和町斎宮)で「夏越しの祓え」
7月4日	タ刊三重	斎宮宮殿域などテーマに9月2日に斎宮学講座 斎宮歴博
7月5日	タ刊三重	竹神社前に古代ロマン 文筆点改良で発掘調査説明 斎宮の権威示す広場か
7月5日	タ刊三重	【すがお】土器片に思いをさせて 明和町郷土文化を守る会の会長に就いた 潮田均さん(76)
7月7日	中日新聞	平安貴族の七夕の祭壇 再現 いっきのみや歴史体験館 写真撮影ブース 設置
7月8日	中日新聞	「斎宮生かして」人呼び込め 持続可能な地域づくりへ 明和観光商社 住民参加講座、初回は講演会
7月8日	伊勢新聞	「斎宮祭」の歴史紹介 明和町 きょうから夏季企画展
7月12日	タ刊三重	明和町の発掘調査地で「土器土器」作り体験 斎宮歴博、29日に開催
7月19日	タ刊三重	4年ぶり天王講り奉納 宇爾極神社 天王祭で

日付	発行機関	記事タイトル
7月24日	タ刊三重	28、29日 大淀祇園祭 4年ぶりに完全開催 270周年、3地区山車そろい踏み
7月24日	タ刊三重	県内の児童、生徒が「みえ祭協力隊」参加
7月24日	タ刊三重	初の3地区合同練習も はやし方メンバー 大淀小に集結
7月26日	タ刊三重	瀬古食品 大淀花火に300万円 「オーシャンマイン、天まで」
7月26日	タ刊三重	4年ぶりに子供みこし はやし練習も大詰め 28、29日開催 大淀祇園まつり 本番向け明和中生徒8人
7月27日	中日新聞	270周年 山車3台揃い踏み 大淀ぎおん祭 明和で28、29日 花火復活も
7月29日	タ刊三重	山車、勇壮に練り歩く きょう本日 大淀祇園祭、東区で宵宮
7月30日	中日新聞	海上の山車 大迫力 明和で大淀ぎおん祭 270周年
7月31日	タ刊三重	大淀祇園祭と花火大会 海上渡御や三山車そろい踏み 4年ぶり完全復活で大盛況
8月1日	中日新聞	三山車揃い踏み 花火も彩り 明和で「大淀ぎおん祭」にぎわう
8月1日	タ刊三重	自分だけの墨書土器作り 寄宮歴博で夏休み企画 子供から大人まで50人体験
8月2日	タ刊三重	「水の日」ちなみ青色に 明和町寄宮の復元建物
8月10日	中日新聞	寄宮跡 誘客活用へ調査 店舗や道具 設置検討 明和町議会が予算案可決
8月10日	タ刊三重	明和町 寄宮跡に誘客施設検討 文化保護法 改正受け 外部専門業者に調査委託へ
8月11日	伊勢新聞	明星地区の土師器展示 明和町 ふるさと会館で企画展
8月16日	中日新聞	寄宮跡 道具や出土品で見る 明和の歴史博物館で企画展 すずり、土器など55点
8月17日	建設通信新聞	三重・明和町 18日まで参加受付 史跡寄宮跡 官民連携検討調査
8月18日	タ刊三重	寄宮歴史博物館 寄王支えた経緯に迫る 来月3日まで 夏季企画展で史料55点
8月20日	中日新聞	古代・明和の生活 土器で紹介 道跡から発掘 土師器など展示
8月21日	タ刊三重	寄宮跡の活用調査「町の進め方が一時的」明和町での意見交換会で 地元関係者ら指摘や意見
8月24日	中日新聞	「寄宮跡」土地の誘客活用めぐり懇談会 保存協会「地域の理解 前提」
8月24日	タ刊三重	子供力士が好取組 陸珠院(明和町中村)で安産祈禱相模
8月29日	タ刊三重	明協力し合い展示準備 寄宮歴博で実習 学芸員目指す学生6人 実習生企画の「逸品」展 エントランスで展示
9月1日	伊勢新聞	寄宮歴史博物館で特別展「海の祈り」明和町、来月7日から
9月1日	伊勢新聞	田中さんが最優秀賞 明和町 寄王まつりフォトコン
9月5日	タ刊三重	「寄王まつり」フォトコン 最高賞に田中さん(明和町有間中) 入賞入選作は寄宮歴博で展示
9月9日	タ刊三重	行政と連携し誘客推進 明和観光商社 地域住民ら対象に事業説明会
9月13日	中日新聞	事業や活動目的を紹介 明和観光商社が説明会
9月18日	中日新聞	欠かせぬ住民の理解「寄宮跡」活用 明和町調査へ
9月18日	中日新聞	賀茂の斎院を知り 寄王の知識深める 明和でフォーラム
9月20日	タ刊三重	寄宮歴博「源氏物語」働き掛け 西脇殿でフォーラム 賀茂斎院・選子を紹介
9月27日	タ刊三重	ランブアートや演劇会 29日、いつきのみや観月会 国史跡寄宮跡保存協
9月30日	タ刊三重	いつきのみや体験館周辺 和東薬業で、みやびに 名月、平安気分で堪能
10月3日	伊勢新聞	県議会一般質問 西郷債行議員(自民党)【寄宮跡】

日付	発行機関	記事タイトル
10月3日	中日新聞	斎宮の地 名月来しむ 明和に県内外から7000人
10月4日	夕刊三重	航海の無事祈願した資料など 斎宮歴博で7日から特別展 海の博物館と連携講座も
10月9日	読売新聞	麻呂家危機 復活へ知恵 免許3万人→生産者27人 町・大学と栽培 ■紙器商品化
10月13日	中日新聞	小物販売、飲食など60店 明和・斎宮跡で15日催し
10月13日	夕刊三重	奈良時代の斎王宮殿近鉄山田線沿いで初確認 井上内親王の正殿が大型で特異な構造の双堂21日に現地説明会
10月14日	中日新聞	奈良時代の斎王「正殿」発見「斎宮跡」発掘調査歴史博物館「当時の天皇が重視した物的証拠」 21日現地で説明会
10月14日	中日新聞	花手水3周年 特別御朱印です 明和・竹神社 21日から写真コンテスト
10月14日	伊勢新聞	奈良時代の宮殿跡発見 知事会見 斎宮跡で過去最大規模
10月14日	毎日新聞	斎宮跡に奈良時代の正殿跡 三重 飛鳥時代より面積2倍
10月18日	中日新聞	丹精のコスモス 風に揺れる 共演 歴史と近鉄と 明和・斎宮跡
10月20日	中日新聞	坂本古墳群「印」に注目 明和観光商社 PRへ販売
10月21日	夕刊三重	京都・嵐山で「斎王の舞」 明和町の保存会 4年ぶりに披露 野宮神社の斎宮行列大結式で
10月22日	中日新聞	例のない構造 高い格式 奈良時代の正殿か 斎宮跡で説明会 知事が視察、550人が参加
10月23日	夕刊三重	歴史ファン、書役の情 546人詰め掛ける 斎宮正殿跡遺跡で説明会に
10月26日	夕刊三重	麻畑で初の刈り取り 安全と豊穣祈念の神事 天津竈麻プロジェクト
11月5日	中日新聞	「倭姫宮」きょう創建100周年 伊勢神宮・別宮 奉祀行事が続く 講演や音楽演奏にぎわう きょうも舞楽や詩吟…
11月5日	中日新聞	斎王の魅力 能「絵馬」物語で 斎宮跡 企画多彩に きょうは映像投影
11月6日	伊勢新聞	【まる見え三重リポート692】 傾く宮殿方形区画の先に 飛鳥、奈良、平安の斎宮 大神神社と同じ山並み
11月6日	夕刊三重	斎宮舞台の能「絵馬」披露 明和町の文化観光推進協がイベント 能楽師・観世さんら演じる歌手・相川さん登場に歓声 さいこう平安の杜正殿前で
11月6日	夕刊三重	伊勢神宮「倭姫宮」 鎮座100年を奉祝 伊勢の神宮御古館前で 斎王役の山中さんからセレモニー
11月8日	中日新聞	海にまつわる神事や風習 斎宮歴史博物館で特別展 文献や絵図、祭りに使う道具紹介
11月11日	夕刊三重	「斎王の庭」花いっぱい 明和ゆたか園5歳児、ハジメの苗植え
11月15日	夕刊三重	【すがお】力を結集し次世代へ継承 東谷豊介さん(42)
11月16日	夕刊三重	4章構成で「海の祈り」展 斎宮歴博 26日まで 祭紀や風習伝える資料など
11月20日	神社新報	「倭姫宮ご鎮座百周年記念奉祀行事」
11月22日	夕刊三重	「めいわ文化遺産講座」 2回目の参加者募る 来年1月21日開催
11月27日	朝日新聞	斎宮跡予想外の発掘成 奈良時代の正殿跡のない建物構造 明和町双堂、同規模の前殿・後殿2度建て替え代替わりか660年続いた「斎王制度」
11月29日	夕刊三重	南勢地区最大級を体感 明和町郷土文化を守る会「高塚1号墳」で現地説明会
12月10日	中日新聞	明和の文化遺産 県職員らが解説 来月21日講座
12月13日	中日新聞	斎宮跡を核に魅力発信 24〜26年度 県、文化振興計画(仮称)策定
12月15日	三重テレビ	真っ青な冬の空に一面黄色のじゅうたん 季節外れの菜の花満開 三重・明和町
12月18日	夕刊三重	狐師かんこ、大淀紙園 小中高生が体験発表 津で23日、みえ祭会議
12月22日	夕刊三重	鎌倉時代初期の斎王テーマに「斎宮学講座」 来年2月24日、斎宮歴博
12月24日	中日新聞	mabi 乗って 移動しよう イオンモール明和で吉本所属芸人が紹介

日付	発行機関	記事タイトル
12月28日	中日新聞	【2023回顧】下半期 ⑤【10月 斎宮跡で奈良時代の斎王正殿を発見】
12月28日	中日新聞	明和の古刹 安養寺 開祖の衣類 解説 京都国立博物館の学芸員、地元住民に
1月22日	タ刊三重	地域の魅力、受講者も紹介 明和町日本遺産活用推進協「めいわ文化遺産講座」開く
1月25日	中日新聞	地名の歴史や祭り 文化遺産知って 昨年の斎王役や専門家が講演 明和・交流センター
1月27日	タ刊三重	紅梅見頃、餅ころもふ 明和町竹川 梅林で
1月30日	中日新聞	自慢の収蔵品一堂に斎宮歴史博物館松阪周辺まちかど博物館大集合老舗和菓子店や寺院も19カ所から200点出展
1月31日	中日新聞	伝統の「天王講」明星小児童学ぶ 明和 ほら貝吹き、祭り衣装試着
2月20日	タ刊三重	神宮支えた権力者埋葬か 明和町郷土文化を守る会が講演会 穂積さん(果樹蔵文化財所長)、高塚1号墳語る
3月1日	タ刊三重	斎宮跡 西脇殿跡も新たに発見 奈良時代の斎王宮殿域 構造や規模 特定など前進 9日に現地説明会
3月8日	伊勢新聞	西脇殿跡見つかる 奈良時代の斎王宮殿域 あす発掘調査現地説明会 斎宮歴史博物館【多気郡】明和町
3月10日	中日新聞	「西脇殿の痕跡」見つかる 明和「斎宮跡」現地説明会に222人 奈良時代の宮殿域解明へ
3月11日	中日新聞	三田さん 憧れの斎王役に「まつり」へ 明和で選考会
3月11日	タ刊三重	6月1日「斎王まつり」第39代斎王役に三田さん「明和町の顔として務めたい」
3月19日	中日新聞	住民理解得て誘客対策を 明和町長選を前に 斎宮跡活用した観光振興 道の駅や温泉など目玉に
3月27日	タ刊三重	愛子さま、斎宮博を視察 一人で訪問 初めて「優雅」、見物の子供ら興奮 昨日は神宮参拝
3月27日	中日新聞	「陰陽師O」夢枕さんと佐藤監督「斎宮跡」巡る 器に五芒星 思わぬ発見「映画もより分かる」
3月27日	中日新聞	映画「陰陽師O」魅力を紹介 原作者・夢枕さん×佐藤監督トークショー 斎王ゆかり 明和で試写
3月28日	中日新聞	愛子さま 斎王のルーツに関心 博物館などで子らと交流も
3月28日	伊勢新聞	斎宮歴史博物館など訪問愛子さま、児童と交流も「非常に優しい方」知事、愛子さまの人柄に触れ伊勢市長が講話
3月28日	中日新聞	愛子さま「貝置い」体験 斎宮歴史博物館など訪問
3月28日	毎日新聞	愛子さま「貝置い」ビタリ 明和・いつきのみや歴史体験館を訪問
3月28日	読売新聞	愛子さま 斎宮博物館見学 案内の館長「大変な光栄」
3月28日	タ刊三重	愛子さま、小学生と交流 いつきのみや歴史体験館 平安遊びの「貝置い」挑戦
3月28日	タ刊三重	斎王「儼子女王」が登場映画「陰陽師O」先行上映原作者と監督がトークショー109シネマ明和で竹神社など巡った印象語る

附編.

<種別凡例>

1. 指定文化財

登録有形文化財
一覧

有＝有形文化財、無＝無形文化財、民＝民俗文化財、記＝史跡名勝天然記念物、建＝建造物、
絵＝絵画、書＝書跡・典籍、彫＝彫刻、工＝工芸品、文＝古文書、考＝考古資料、無＝無形民
俗文化財、史＝史跡、天＝天然記念物

国指定文化財一覧

種別	名称	員数	時代	所有者等	指定年月日
有 彫	木造諸尊仏像	1躯	平安	個人	S38. 7. 1
有 考	三重県寄宮跡出土品	2661 点	飛鳥～平安	三重県	H21. 7. 10
有 考	三重県天白遺跡出土品	163 点附1点	縄文	三重県	R5.6.27
記 史	水泊土器製作遺跡	1	奈良	明和町	S52. 7.25
記 史	寄宮跡	1	奈良～平安	明和町ほか	S54. 3.27
記 天	寄宮のハナショウブ群落	1		明和町	S11.12.16

県指定文化財一覧

種別	名称	員数	時代	所有者等	指定年月日
有 工	刀 銘 圓山宗次作之	1口	江戸	個人	S31. 5. 2
有 工	短刀 銘 雲林院政盛作	1口	室町	個人	S43. 3.18
有 工	六地藏石幢	1基	室町後期	中町自治会	S62. 3.27
有 工	仏通達師所用法衣並びに伝来什物	一括	鎌倉～江戸	宗教法人安養寺	H29.2.2
有 絵	紙本金地著色伊勢物語圖六曲屏風	1双	江戸前期	三重県	H17. 3.17
有 絵	紙本着色源氏物語色紙貼交二曲屏風	1双	桃山末・江戸初期	三重県	H17. 3.17
有 書	寄宮女御集(正殿所蔵本)	1冊	鎌倉	三重県	H22.3.11
有 書	寄宮女御集(資經本)	1冊	鎌倉	三重県	H22.3.11
有 文	紙本着書 假元大恵印信 附 紙本着書空然印信	25 通	鎌倉	安養寺	S33.12.15
有 文	紙本 墨書安養寺文書	8通	鎌倉～室町	安養寺	S33.12.15
有 文	大淀村二天八王子社神事頭書張	1巻	室町	竹大与杆神社	S62. 3.27
有 考	金銅装頭椎大刀	1 口	古墳	明和町教育委員会	H13. 3.27
有 考	馬形埴輪(石室跡東古墳群 63 号墳出土)	1 点	古墳	三重県	H15. 3.17
有 考	土偶(粥見井尻遺跡出土)	2 点	縄文	三重県	H16. 3.17
有 考	雲出鳥貫遺跡中世墓出土品	36 点	鎌倉	三重県	H17. 3.17
有 考	初期須恵器・韓式系土器(六太 A 遺跡出土)	107 点	古墳	三重県	H18. 3.17
有 考	磨製石斧製作関係資料(一括)(富山遺跡出土)	121 点	弥生	三重県	H19. 3.27
有 考	陶質土器(木造赤坂遺跡出土)	1 点	古墳	三重県	H21. 3.11
有 考	東条1号墳出土品	551 点	古墳	三重県	H29. 2.2
有 考	天白遺跡出土品	2049 点	縄文	三重県	H30.2.16

記	史	坂本古墳群	1	古墳	明和町	H16.1.19
---	---	-------	---	----	-----	----------

町指定文化財一覧

種別	名称	員数	時代	所有者等	指定年月日
有 建	乾輪寺表門	1棟	江戸	乾輪寺	S56.10.27
有 建	乾輪寺庫裡	1棟	江戸	乾輪寺	S56.10.27
有 彫	木造聖観音立像	1幅	平安	養川自治会	S56.8.10
有 彫	木造胎蔵界大日如来坐像	1幅	平安	養川自治会	S56.8.10
有 彫	木造阿弥陀如来立像	1幅	鎌倉	納願寺	S56.9.28
有 彫	木造阿弥陀如来立像	1幅	鎌倉	西谷寺	S56.10.27
有 彫	木造僧形坐像	1幅	江戸	納願寺	S58.1.25
有 彫	木造阿弥陀如来立像	1幅	室町	円明寺	S58.1.25
有 彫	木造獅子頭	1個	室町	久安寺	S58.1.25
有 彫	木造不動明王立像	1幅	平安	西光寺	H26.3.24
有 彫	木造阿弥陀如来立像	1幅	平安	宗教法人長光寺	R4.2.25
有 工	銅 鐘	1口	江戸	乾輪寺	S56.10.27
有 文	八木戸庄屋文書	1450 点余	江戸	明和町	S56.10.27
有 文	佐田村子安地蔵坐像	1巻	江戸	明和町	H4.7.17
有 文	郷中十七ヶ条	1巻	江戸	明和町	H5.12.21
有 文	北島具教感状	1幅	室町	明和町	H5.12.21
有 考	環状臺形土器	1口	縄文	明和町教育委員会	H8.9.27
有 絵	浄土三部経曼荼羅	三幅	江戸	宗教法人轉輪寺	H31.3.7
無 民	前野のお頭神事	—	江戸	前野自治会	S59.2.23
無 民	麻生の左義長	—	江戸	麻生自治会	S59.2.23
無 民	大淀の紙圍祭	—	江戸	明和町大淀 三世古・東区・山大淀	S60.2.18
無 民	算所の紙圍祭	—	安土桃山	算所共進社	S60.2.18
無 民	前野の浅間行事	—	江戸	前野自治会	S60.2.18
無 民	宇間様神社かんこ踊り	—	江戸	有間中自治会	S60.2.18
無 民	養村虫送り	—		養村自治会	H26.3.24
無 民	佐田西出 天王さんのお社塔	—	江戸	西出自治会	H31.3.7
無 民	上村のシメナフ日待ち	—		上村自治会中組	R5.2.27
記 史	鳥墓神所跡	1		養村区	S58.1.25
記 史	俣子内親王墓	1		個人	S58.1.25
記 史	斎王尾野邊御役場跡	1		明和町	H7.3.17
記 史	陸軍第七通信連隊一八八部隊 防空壕	1	昭和	多気郡東部土地開発公社	H28.3.23
記 史	小金古墳群 3号墳	1	古墳	明和町	H28.3.23

国登録文化財一覧

種 別	名 称	員数	時代	所有者等	登録年月日
有 建	源野家住宅主屋	1	大正5年/ 昭和40年頃・令和元年改修	個 人	R5.8.7
有 建	乾家住宅門及び塀	1	江戸後期/昭和中期改修	個 人	R5.8.7

2. 各種委員会 当課の業務に関わり下記の委員会にて審議等をいただいている

・明和町文化財保護審議会

(令和4年4月1日～令和6年3月31日)

氏名	専門分野	氏名	専門分野	氏名	専門分野
倉田 直純 (会長)	考古学	藤田 直信	仏教美術 (彫刻)	西村 由美子	郷土史
高橋 徹 (副会長)	建造物	谷戸 佑紀	古文書	渡邊 幸宏	郷土史
		中谷 真弓	民俗	千種 清美	郷土史

・明和町歴史的風致維持向上計画協議会 (会長：増淵 徹) (令和4年2月1日～令和6年1月31日)

(令和6年2月1日～令和8年1月31日)

京都橋大学文学部名誉教授 増淵 徹	明和町文化財保護審議会委員 高橋 徹
國學院大學観光まちづくり学部教授 浅野 聡	国史跡斎宮跡協議会会長 中川 肇二
三重県教育委員会社会教育・文化財保護課課長 天野 長志	(公財)国史跡斎宮跡保存協会代表理事 大和谷 正
三重県環境生活部文化振興課課長 川口 晃	明和町観光協会会長 森下 清
三重県県土整備部都市政策課課長 林 幸喜	斎宮ガイドボランティア会長 田所 秀明
明和町文化財保護審議会会長 倉田 直純	明和町副町長 下村 由美子

・明和町日本遺産活用推進協議会 (会長：明和町副町長) 構成団体名簿

明和町	明和町商工会	明和太鼓保存会	明和町縁のまちづくり推進委員会
斎宮歴史博物館	明和町観光協会	明和音頭保存会	斎宮の舞保存会
(公財) 国史跡斎宮跡保存協会	斎王まつり実行委員会	斎宮ガイドボランティア	呉竹倶楽部
国史跡斎宮跡協議会	大淀祭典委員会	明和町郷土文化を守る会	

オブザーバー：近畿日本鉄道株式会社、三重交通株式会社、(一社) 明和観光商社

・史跡斎宮跡保存活用計画策定委員会

(会長：倉田 直純 副会長：中川 肇二) (令和5年1月20日～令和7年1月19日)

明和町文化財保護審議会会長 倉田 直純	(一社) 明和観光商社代表理事 千田 良仁
京都橋大学文学部名誉教授 増淵 徹	三重県教育委員会社会教育・文化財保護課課長 天野 長志
國學院大學観光まちづくり学部教授 浅野 聡	三重県環境生活部文化振興課課長 川口 晃
国史跡斎宮跡協議会会長 中川 肇二	三重県雇用経済部観光局観光資源課課長 酒井 智一
国史跡斎宮跡協議会副会長 北村 純一	斎宮歴史博物館館長 大西 宏明
国史跡斎宮跡協議会副会長 田所 秀明	明和町副町長 下村 由美子
(公財) 国史跡斎宮跡保存協会代表理事 大和谷 正	(オブザーバー) 文化庁文化財第二課主任文化財調査官 渋谷 啓一
明和町観光協会会長 森下 清	

斎宮跡保存活用計画作業部会

明和町文化財保護審議会 会長	国史跡斎宮跡協議会 副会長	三重県環境生活部文化振興課 事務担当職員
京都橋大学文学部 名誉教授	(公財) 国史跡斎宮跡保存協会	三重県雇用経済部観光局観光資源課 課長
國學院大學観光まちづくり学部 教授	明和町観光協会 会長	斎宮歴史博物館 調査研究課職員
国史跡斎宮跡協議会 会長	(一社) 明和観光商社 代表理事	明和町斎宮跡・文化観光課 課長
国史跡斎宮跡協議会 副会長	三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 史跡担当職員	(オブザーバー) 文化庁文化財第二課 主任文化財調査官

3. 事業 (*主要な事業の経費と概要)

1-1. 史 斎宮跡 史跡等買上げ(直接買上げ)事業(土地公有地化事業)

190,427,163 円(国庫支出金: 152,327,000 円、県補助: 28,561,000 円)

史跡斎宮跡の保存を図るため、国庫補助および県費の補助金を受けて、12 筆(公算面積 7,214.77 m²)の公有地化を行った。なお、事業に伴い補助対象外事業として、史跡斎宮跡へ幅広い来訪者が来てもらえるよう、「斎王楽市」を開催した。

1-2. 史 斎宮跡 史跡等買上げ(先行取得償還)事業

平成 30 年度分 26,689,022 円(国庫支出金: 21,351,000 円、県補助: 4,003,000 円)

令和 3 年度分 460,657 円(国庫支出金: 367,000 円、県補助: 69,000 円)

史跡斎宮跡の保存を図るため平成 30 年度及び令和 3 年度に土地を先行取得した経費の償還を行った。なお、事業に伴い補助対象外事業として、史跡斎宮跡への来訪者の周遊性を高めるため、関係施設を巡る重ね押しスタンプラリーを実施した。

2. 埋蔵文化財発掘調査

・史 町内遺跡 発掘調査等事業 3,193,359 円(国庫支出金: 930,000 円、県補助: 217,000 円)

町内の遺跡地内における個人住宅等の申請内容について緊急に対応するため、国庫補助を受けて

調査を実施した。本年度については、史跡斎宮跡内において2件、48㎡ならびに北野遺跡において360㎡で発掘調査を行った。

- ・歴史的風致維持向上計画推進事業に伴う発掘調査 2,886,879円
(※歴史的風致維持向上計画推進費に含まれる)
- ・埋蔵文化財緊急発掘調査(一般会計受託事業) 2,001,814円
(史跡斎宮跡第204-5次調査分・西浦遺跡第3次調査分)
- ・文化財保存活用費(発掘調査分)(一般会計): 2,412,979円 (城堀遺跡試掘調査ほか)

3. 史跡および施設の管理

- ・史跡管理事業 46,844,205円(国庫支出金: 1,000,000円) 保存活用費
- ・体験学習施設維持管理費 49,349,710円 (県補助: 19,357,000円)
- ・植栽事業 1,519,820円

史跡斎宮跡内の公園管理、いつきのみや歴史体験館などの運営管理、施設管理については公益財団法人国史跡斎宮跡保存協会へ委託し、管理を行った。

4. 歴史的風致維持向上計画推進費 48,234,982円(国庫支出金26,717,000円)

明和町歴史的風致維持向上計画に基づき、国庫補助を受けて事業を実施した。本年度の主な事業としては、下園・御館道ポケットパーク整備工事、東加座広整備工事である。また、今年度は「史跡のまちづくりに係る地域活性化拠点創出 官民連携手法検討調査業務委託」を実施した。

5. 日本遺産魅力発信推進費 4,470,395円(国庫支出金1,910,000円)

明和町日本遺産活用推進協議会(事務局: 斎宮跡・文化観光課)が、文化庁の地域シンボルの整備等補助事業の補助金を受けて事業を実施した。

6. 坂本古墳群保存事業: 453,598円

歴史的風致維持向上計画事業に基づき公園整備が行われ、当課および地元坂本自治会の協力を得て公園管理を行っている。

7. 斎宮のハナショウブ群落管理費: 1,449,207円

『斎宮のハナショウブ群落保存管理計画』(平成22年度策定)に基づき、給水および雑草の除却や周辺の草刈りなどを実施した。管理は当課職員と作業員が行うとともに、東野自治会に一部を委託している。

< 報告書抄録 >

ふりがな	めいわちようぶんかざいねんぼう れいわごねんど							
書名	明和町文化財年報 一 令和5年度一							
編著者名	味増井 拓志、中藤 祐巳							
編集機関	明和町企画課・文化観光課							
所在地	〒515-0332 三重県多気郡明和町大字馬之上 945 番地 tel0596-52-7126							
発行年月日	2025年3月10日							
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
西浦遺跡 (3次)	行部字西浦 1310	442	243	34 度 34 分 26 秒	136 度 36 分 39 秒	2024.1.16 ～ 2024.3.15	76	福祉施設 建設
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	散布地	縄文～近世	井戸跡、土坑、ピット	円筒埴輪、土師器、青磁、山系輪、硯、銭（嘉永通宝）、管状土練、鉄製品				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
城堀遺跡 (8次)	上村字城堀 1309-30	442	170	34 度 31 分 37 秒	136 度 35 分 55 秒	2023.5.10 ～ 2023.6.6	96	宅地造成
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	散布地、 集落跡、城 館跡、その 他の基	古墳、奈良、 中世	溝等	土師器、須恵 器、硯等				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
北野遺跡 (20次)	賀村字願礼野 370 番 2 外 17 筆	442	228	34 度 31 分 32 秒	136 度 37 分 24 秒	2023.7.18 ～ 2023.10.31	360	土地造成 工事
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	集落跡 生産遺跡	旧石器～近世	堅穴建物3基、竪立 柱建物、土師器焼成 坑6基、粘土貯蔵 穴、土坑、溝等	土師器、須恵 器、土製紡錘 車等				
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
麻績神社西方遺跡 (2次)	中瀬字古川 546 番地外 18 筆	442	310	34 度 33 分 25 秒	136 度 36 分 39 秒	2023.10.17 ～ 2023.10.19	50	砂利採取
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	散布地	中世以降	なし	土師器				

明和町文化財年報

—令和5年度—

発行年：令和7年（2025）3月10日

編集：明和町斎宮跡・文化観光課

発行：三重県多気郡明和町

印刷：光出版印刷株式会社